

## トビウオ通信 (R5 第7号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《令和5年度マアジ新規加入量調査結果速報》

マアジ0歳魚(令和5年(2023年)生まれ)の新規加入量調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は、その年に生まれたマアジの加入状況を早期に把握するために、平成15年以降実施しています。

参画機関は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水研)、鳥取県水産試験場、山口県水産研究センター及び島根県水産技術センターです。

#### 結果の概要

- マアジ0歳魚は、適水温帯(17~19℃)が広がる大田市沖以西の海域で多く採集された。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ0歳魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、平成15年を1.00とすると0.70となり、昨年(1.22)を下回った。
- 今年のマアジ0歳魚の来遊量は、前年並みか前年を下回ると推測された。

#### マアジ0歳魚の採集結果と分布状況

令和5年(2023年)5月16日から6月14日にかけて、長崎県五島列島沖から鳥取県沖までの海域における76地点でマアジ0歳魚を対象とした中層トロール網を用いた調査を実施しました。その結果、尾叉長2~4cmサイズを主体に合計9,285尾(1曳網当たりの平均採集尾数:113尾)が採集されました(図1)。

採集されたマアジ0歳魚は、適水温と考えられる17~19℃(水深50m)の水

温帯に多く分布していました。分布範囲は、例年同様、五島列島沖から鳥取県沖までの広範囲に及び、CPUE（1 曳網当たりの採集尾数）は、①大田市沖から長崎県沖にかけて多く、②日御碕沖から鳥取県沖にかけて少なくなりました。

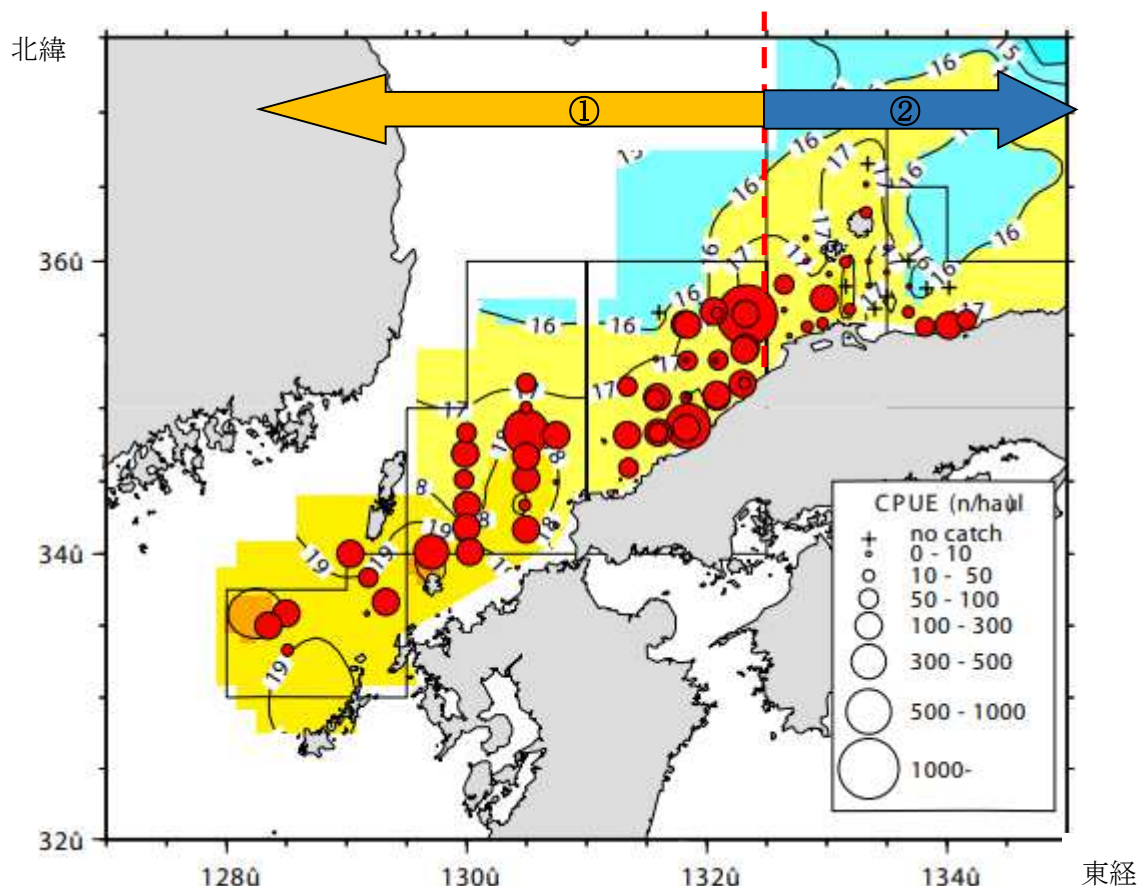


図1 マアジ新規加入量調査における令和5年のマアジ0歳魚の採集結果  
 円の大きさはマアジのCPUE（1 曳網当たりの採集尾数）の多さを表し、+  
 は採集されなかった点を表す。  
 水深50mの水温分布については、青色が16℃以下、黄色が16～20℃を表し、  
 図中の数字は水溫を示す。  
 (資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成)

### マアジ0歳魚の加入量と今後の漁況

マアジ0歳魚の分布量と調査海域の水深50mの水温分布を基に、水研が算定したマアジ0歳魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、平成15年を1.00とすると、今年は0.70となり、昨年（1.22）を下回りました（図2）。このことから、

今年のマアジ0歳魚の来遊量は、前年並みか前年を下回ると推測されます。

マアジは小型の0歳魚を漁獲するよりも1年後に成長してから漁獲したほうが単価は高く、資源を有効に活用できます。単価の低い小型魚を多く獲り過ぎてしまうと、将来の単価の高い大型魚の漁獲量が減るだけでなく、産卵親魚の減少にもつながるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが重要です。

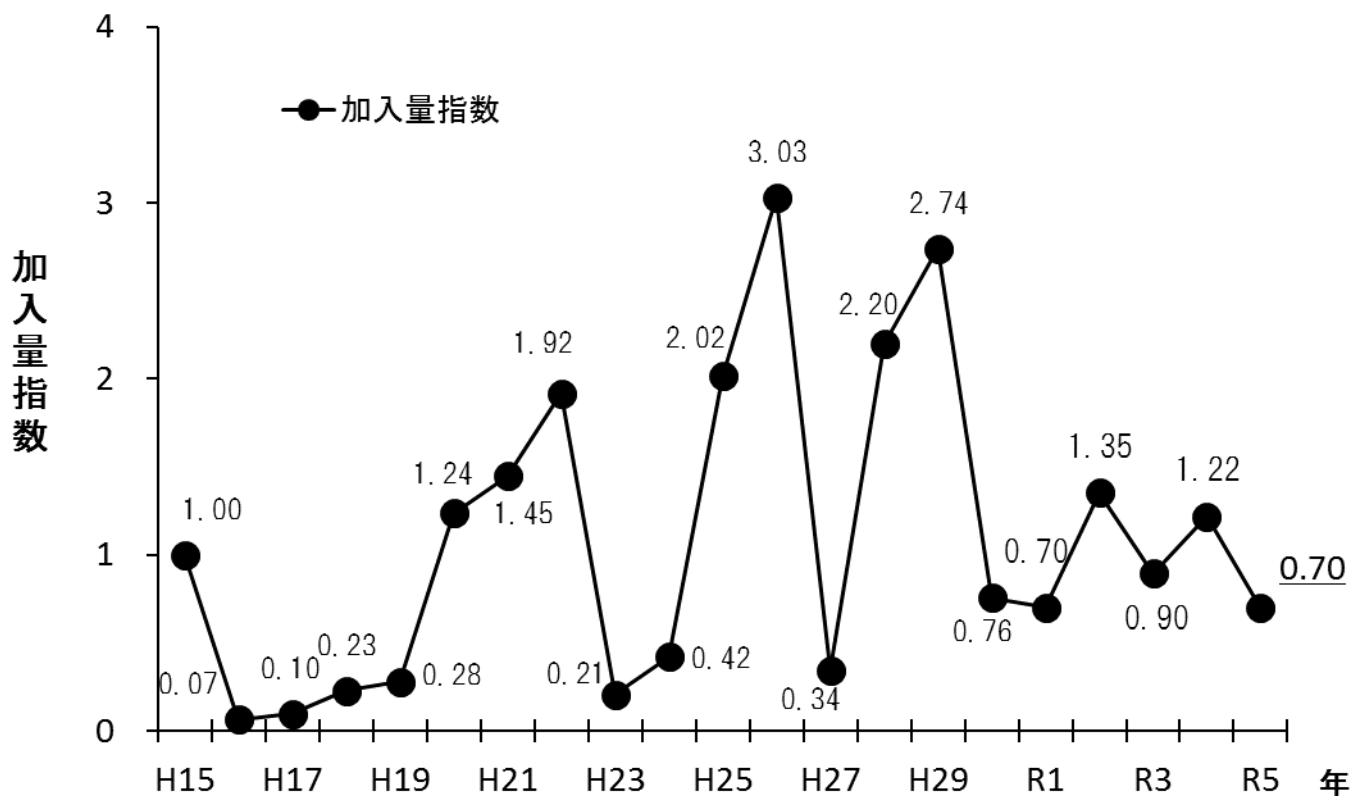


図2 マアジ0歳魚の加入量指数の動向

(資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成資料より一部抜粋)